



© 吉野信

今年1月28、29日にインドでタイガーサミットが開かれました。これは2010年の寅年にロシア、サンクトペテルスブルグでトラ生息国の閣僚が集まり、次の寅年までにトラの個体数を倍加させる宣言をした「タイガーサミット」後の各国の取組を点検するための国際会議です。

この会議では初めて目にする情報は出てきませんでしたが、強調されたのはトラ生息国の間でトラの保護管理に大きなギャップがあることです。インド、ネパール、ロシアでは、密猟、資金調達および地域生活の維持には課題があるにもかかわらず、トラの個体数回復が可能であることが示されていました。その一方、東南アジアの国々のトラ個体数は激減しています。カンボジア、ラオス、ベトナムは絶滅宣言を待つばかり、ミャンマーやマレーシアの推定個体数も減少し、資金不足、人員不足などこれまで同様の問題点が繰り返されています。マレーシア政府は東南アジアにおけるトラ保護活動への注目を集めるために次回のタイガーサミットを主催することへの関心を示すなど積極的でしたが、トラ個体数は200頭以下とされています(2010年には500頭とされていた)。

さらに問題なのは、繁殖施設で飼育されているトラの個体数の増加です。繁殖施設は一見動物園のように見えますが、裏の

目的が取引をするための虎骨やトラの身体部分の供給にあることは明らかです。野生絶滅をしてしまったカンボジアにトラを再導入させる計画が2年ほど前から出ていますが、実現はまだのようです。再導入されたトラがその地で自由に生き延びていくには獲物となる草食動物がいなければならないし、密猟防止の体制が整えられていなければなりません。インドなどからトラを持ってくればよいなどと安易に考えて「墓場に送る」ようなことになることは是非とも避けるべきです。

目次	巻頭言 … 1
	トラの保全をめぐる動き2017 … 2
	2017年度 事業の概要と収支報告 … 3
	2017年度 事業報告(生息地支援) … 4・5
	2017年度 事業報告(普及啓発イベント) … 6
	2018年 事業計画と予算 … 7
	事務局日誌 / イベント・カレンダー … 8

ワシントン条約締約国会議での議論

今年5月に第18回ワシントン条約締約国会議がスリランカで開催されます。今回の注目はトラの繁殖施設の問題です。

昨秋、ロシアで開かれたワシントン条約の常設委員会では考慮すべきいくつかの重要な報告が行われました。中国、チェコ共和国、ラオス、南アフリカ、タイ、ベトナムなど、多くのトラを収容している繁殖施設を持つ国々のトラ身体部分が違法取引に関与していると確認されているということです。そこでワシントン条約事務局は、施設の詳細を次の5月の締約国会議に先立って行われる常設委員会会議で報告するよう、関係国に求めています。これは、インド、ハンガリー、マレーシアといった締約国だけでなく、イギリスのNGOである環境調査エージェンシー（EIA-UK）を中心に、インドや他の10のNGO（JTEFも含む）が働きかけを行った成果でもあります。

この議論の中で驚かされたのは、アジアの大型ネコ科動物の身体部分や製品に対する需要がラテンアメリカのジャガーにまで密猟や違法取引を引き起こしている、とブラジルとペルーが懸念を表明したことでした。

常設委員会終了後の2018年11月、突然、中国が科学的研究、医学研究および治療用、文化財としての販売、文化交流のための提供という目的に限定し、1993年以来25年間にわたって禁止してきたトラの骨とサイの角の（国内）取引を再開することを明らかにしました。中国には200の繁殖施設があり約6500頭の養殖トラが存在していると推定されています。その1つ、ハルピンで1300頭のトラを飼育しているシベリアタイガーパークという施設では虎骨を浸した酒をボトル1本あたり最高1000USドル（10万円以上）で販売しています。この規制緩和は、トラやサイの養殖産業に利益をもたらそうとしている、と世界の保護団体や活動家による批判の嵐が起き、ワシントン条約事務局にも、「どうなっているのか」という批判の声が多く寄せられ、事務局がウェブサイトで釈明を行う事態ともなりました。

中国は2017年に象牙の国内市場閉鎖をいち早く決定し、また2020年には中国北東部の野生のトラのための世界最大の保護区の1つを開設する予定でもあり、近年、野生生物保護に大きな進歩を遂げています。その一方で、この虎骨取引再開は、中国で年間約500億ドル相当の伝統的な製薬業界を発展させ、それを中国の「一帯一路」戦略の重要な柱として位置づけようと考えていることが懸念されます（1月8日ロイター通信）。

今回は保護団体からの批判を受け、中国はとりあえずペンディングにする賢明な措置を取りましたが、この問題が再燃する可能性は高く、油断ができない状況です。



トラファーム



【事業の概要】

▶ 生息地支援

【中央インド・トラ保全プロジェクト】

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：
1,757,935円（1,650,000円）
現地パートナー：インド野生生物トラスト（WTI）

【目的】

ヴィダルバ地域（マハラシュトラ州）内のトラの生息地確保・密猟防止

【概要】

ティベシュワール野生生物保護区において、以下の活動を行う。

- ・住民参加のトラとの軋轢対応チームの組織化とその活動に対する支援
- ・森林局の最前線森林スタッフに対する支援
- ・地域住民が自然ガイドとして活動するためのトレーニング
- ・生息地の開発規制に関する提言

*活動の一部は、公益信託地球環境日本基金から助成を得て実施しました。

【マレートラ密猟防止プロジェクト】

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：
0円（0円）

今期は、現地からの要請がなかったため、支援を見送りました。

▶ 保全教育・普及・・・5、6、8頁参照

▶ チャリティー・イベントの開催・・・6、8頁参照

▶ 会報発行・・・年次報告書（2018年2月）、保護基金通信（2018年6月、10月）、メール・マガジン（3回）、ウェブサイト運営

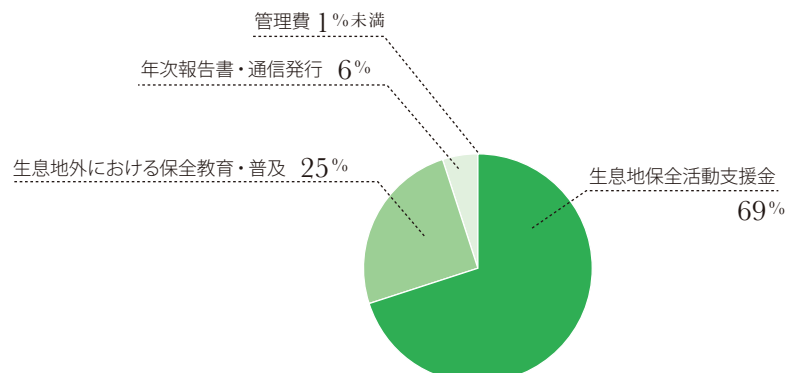
【決算報告】

*トラ保護基金 JTEF2017年度決算（2017年11月1日～2018年10月31日）

収益		単位：円
正会員年会費	0	
寄附金	1,980,100	
助成金（地球環境日本基金、他）	1,001,700	
受取利息・為替差益	0	
合 計	2,981,800	

費用		単位：円
生息地保全活動支援金	1,757,935	
生息地外における保全教育・普及	623,320	
保全に関する政策提言	0	
チャリティー・イベントの開催	0	
年次報告書・通信発行	144,840	
管理費（人件費・水道光熱費・消耗品費、その他）	2,678	
合 計	2,528,773	

※共通の収益は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支状況を考慮して適正に配分しています。



トラと共存する暮らし向上プロジェクト

JTEFは10年間行ってきたナグジラ・ナワゴン・トラ保護区の保全活動が功を奏し注目されたことで、ヨーロッパの組織が大きな保護資金をWTIに提供することになりました。JTEFは先駆者としての役割を終えたというわけです。そこで、新たな「保護の手が及ばない」トラの生息地、ティペシュワール野生生物保護区とその周辺での活動を開始しました。



【プロジェクトの背景】

ティペシュワール野生生物保護区は、今までJTEFが支援してきたナグジラ・ナワゴン・トラ保護区の南にあります。インドには地球上の野生のトラ3500頭の半数以上が暮らしていますが、その個体数のさらに20%以上が中央インドに生息しています。カーナヤベンチ・トラ保護区のように大きく有名な保護区を含む熱帯落葉樹林帯とトラの移動

に不可欠な森林コリドーが野生動物を育てているのです。ティペシュワール野生生物保護区はわずか148.6平方km(大体川崎市と同面積)ですが30種もの哺乳類を始め多くの魚類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫が生息しています。

保護区を含めいくつかの森林の断片を含む地域には、定住する12頭の成獣と18頭の

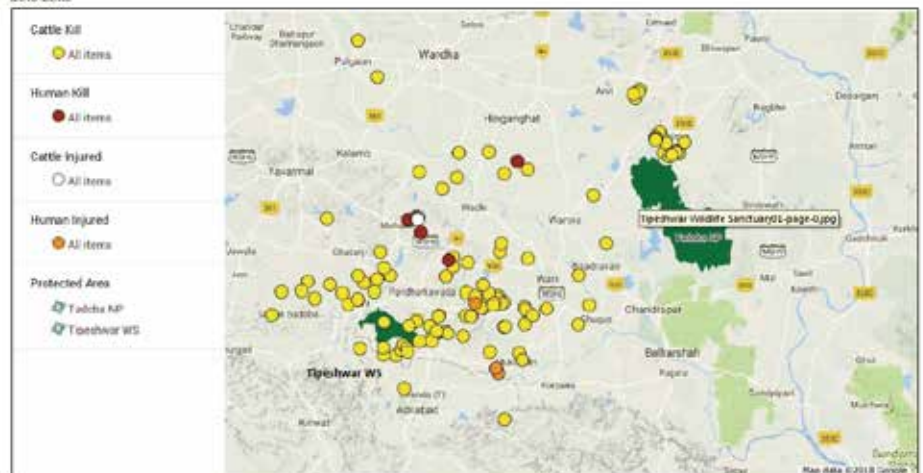
子トラも生息しています。

ただ、問題は保護区の管理が不十分なため、人との軋轢が高まっていて、人間や家畜がトラの被害にあっていることでした。報復から畏をかけてトラを殺す人もいます。

(下図の黄丸が家畜の捕殺、赤丸が人の死亡事故の発生場所)。

TIPESHWAR WILDLIFE SANCTUARY- CONFLICT SITES

Map represents the number of conflict cases recorded in and around Tipeswar Wildlife Sanctuary (Protected Area marked in dark green) between the years 2016-2018.



Pugmarks of Tiger cubs in Tipeswar WLS (Source: Sanctuary Asia)

1. 住民参加のトラとの軋轢対応チームの結成

そこで、村の人たちに軋轢緩和の活動に関わってもらうことにしました。JTEFとWTIは名誉保護区長であるラムザン・ビラニ博士と共に、12の軋轢が起きやすい村の住民と定期的に会合を開き、地域社会の関わり方やトラとの軋轢予防策を検討する戦略会議をもちました。その中で住民参加のトラとの軋轢対応チームの結成が決まり、村の若者たちを中心にパトロールを開始しました。目標はまず、トラやヒョウ、ナマケグマによる人への脅威を軽減し、殺される野生動物の数を減らすことです。

2. 森林局の最前線森林スタッフに対する支援

軋轢への脅威から人々は森林局へ不安が拡大していました。森林局は緊急事態に必要な技術的、財政的基盤が不足していたのです。そこで、名誉保護区長と協力し、野生生物犯罪捜査、インドの野生生物法、生態学的モニタリング、動物救護活動技術など



森林局職員に対するトレーニング



のトレーニング・ワークショップを開催しました。WTIの生物学者スタッフは、自動撮影カメラの使用法、トラの足跡を測定する技術、動物のサインなど集中的な講義を行い、WTIの獣医は、動物を捕獲する際のポイントを指導しました。

3. 開発規制に関する提言

保護区近くの灌漑用水路建設でトラの生息地が分断されそうでした。そこで、WTIはマハラシュトラ州政府森林局に提言し分断緩和の計画を作り、トラへの配慮をする区域を決めて碎石工場など全ての汚染源を閉鎖することになりました。

4. 地域住民の自然ガイドとしてのトレーニング

地元が財政的に潤うことも考えました。野生動物の保護による観光利益です。トラの個体数が増え多くの観光客がこの辺鄙な保護区を訪れています。そこで、州の森林局が任命した地域住民の自然ガイドに、ただトラや他の動物を観光客に見せるだけでなく、保全の重要性を教育しました。彼らはこの保護区に誇りを持ち生計が立てられるようになります。



ガイドへのトレーニング・ワークショップも開催し、32人のガイドが、保全、生態学の知識を向上させようと参加しました。このワークショップを受けると、より多くの収入を生み出す可能性があり、観光客もガイドから生物多様性を学び意識が広がります。WTIのスタッフは、動物の痕跡や保護地域の重要性などの知識を地域社会の発展のためにどう役立てるかフィールドで指導しました。JTEFは参加者全員にリュックサック、Tシャツ、水筒、靴などフィールドキットを提供し、皆の士気が高まりました。

ガイドたちは「このワークショップを受け、たとえトラが見られなくても、今回学んだティペシュワールの歴史や生態学で観光客を魅了させることができます!」と自信をもって話しました。

2017年度
事業報告

保 全 教 育
普 及

上野動物園上野観光連盟との
共同事業による野生生物保全教育

うえのトラ大使

2018年1月20日 台東区上野小学校、2月16日 台東区忍岡小学校にて、うえのトラ大使と上野動物園スタッフと共にトラの保護を考える出張授業を行いました。トラになって野生のトラの生活を体験するゲームやクイズで楽しく元気にトラのことを学びました。

2018年3月11日「うえのトラ大使」第2期生最後のワークショップと卒業式(上野動物園)。2年間トラについて学んだ大使たちからのメッセージには「地球が人間を中心に回っていると思わないでください。」というのもありました。



2017年12月5日～27日

パネル展「森を創り支えるトラ、ゾウ、ヤマネコ」

@パン・オ・スリール(渋谷 オーガニックパン屋さん)



フェアウッドパートナーズのご協力で田中豊美さんの森を創るトラやゾウの絵を展示。ワークショップでは中村亜矢子さんと「運がつく! ゾウUNペーパーでメッセージカード」を作りました。

2018年1月6日～8日

「こんにちは! シャンシャンまつり」

@上野公園イベント広場



象牙のハンコにNO!という「ぞうとの約束」キャンペーン。前上野動物園長にハンコを押して賛同していただきました!

2018年2月10日

「やまねこマラソン」

@西表島



「マラソンは飛ばしても車はゆっくりね」のスローガン、やまねこパトロールTシャツでヤマネコチームが今年も頑張りました!

2018年2月23日

「瀬木貴将 Talk&Live SEGI x JTEF」

@JTEF事務局



サンボーニヤ奏者瀬木貴将さんのご協力でJTEF事務局で行われたTALK & LIVE。アフリカの大自然、動物たちに会いに行きたくなりました。

2018年4月21、22日

アースディ東京2018

@代々木公園



象牙国内市場閉鎖に向けた署名活動、パネル展示、動物のマグネット作りワークショップ。ボランティアも参加者も大勢で賑わいました。

2018年6月2日

JTEFを支えるチャリティーパーティー2018

@恵比寿ピアステーション



「JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会」によりチャリティーパーティー開催。アンジェラ・ラガさんの楽しいライブで大盛り上がりでした。

2018年6月30日

「命をつなぐ Arai Harumi(新井晴み)xJTEF presents エリカ」 @JTEF事務局



いつもご協力いただいている女優の新井晴みさんのシナリオ朗読。子を守る母、家族の愛情の深さはゾウの群れにもつながるものがあります。

2018年7月18日

「アメリカのパークレンジャー リサさんのトーク」

@JTEF事務局



来日中のフロリダ・ビッグサイプレス国立保護区で環境教育を行っているリサさん。色々と参考になるお話を伺いました。

2018年8月12日

世界ゾウの日

@上野動物園



アジアゾウが生息地間を移動できるようグリーンベルトの森を守り、アフリカゾウの密猟を無くするため象牙市場を閉鎖する活動を紹介しました。

2018年10月6日

ゾウとサイを守るグローバルマーチ

@上野イベント広場



上野公園に200人が集結。1時間かけて園内を一周してゾウやサイの保護を呼びかけました。

2018年10月13、14日

ディワリ・in横浜2018

@山下公園(横浜)



奥深いインド文化を楽しめる山下公園でのインドフェスティバル。JTEFはインドの森にいるトラやゾウの現状、保護活動を伝えました。

2018年10月27日

ヤマネコ祭り2018

@井の頭自然文化園



ツシマヤマネコを飼育している井の頭動物園。イリオモテヤマネコも毎年参加させていただいています。クイズも楽しんでいただきました。

□ 中央インド、ティペシュワール野生生物保護区で以下の活動を行います。

- ティペシュワール野生生物保護区内およびその周辺でのトラ等とのコンフリクト軽減のため、即時に対応できる体制強化と状況の監視の向上を目指します。
- 保護区周辺の村で、各村長を集めきめ細やかな環境教育ワークショップを行い村長たちからそれぞれの地域住民に広げてもらいます。
- 学校の子どもたちや地元の若者たちに、ゴミや固形廃棄物の汚染がない「グリーンティペシュワール」を実施する必要性を伝え、彼らがプラスチックやポリエチレンの使用を制限したり、最小限にするよう、訪れる観光客にも促すキャンペーンを開始します。
- 昨年に引き続き、森林官に法律と取締りのワークショップを開きます。
- また、地域の若者へのガイド教育も継続します。

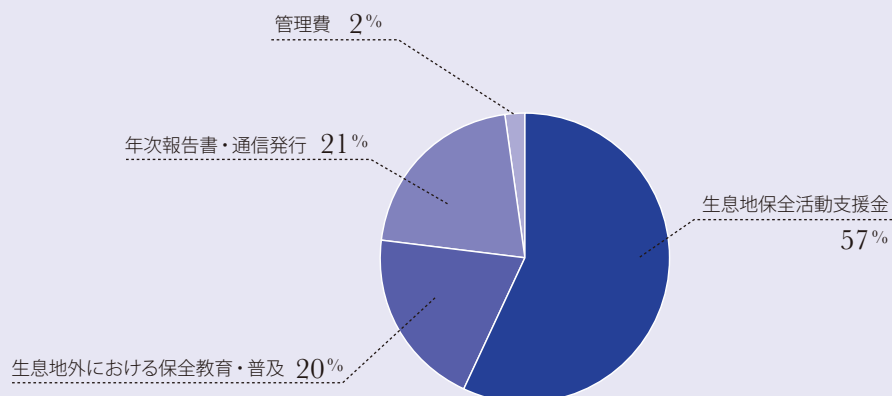
トラ保護基金 JTEF2018年度予算 (2018年11月1日～2019年10月31日)

予算：収益

正会員年会費	0
寄附金	2,057,400
助成金	1,000,000
合計	3,057,400

予算：費用

生息地保全活動支援金	1,750,000
生息地外における保全教育・普及	605,000
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	639,400
管理費（人件費・水道光熱費・消耗品費、その他）	63,000
合計	3,057,400



※共通の収益および費用は、それぞれの予算を考慮して適正に配分しています。

November 2017

11.27～12.1 ワシントン条約常設委員会参加(ジュネーブ)

December

12.5～27 「リ・オ・スリール」にて田中豊美展覧会開催(渋谷区)

12.9 象のUNKO elephant paperとワークショップ開催(渋谷区)

12.17 うえのトラ大使ワークショップ(上野動物園)

12.21 JWCS主催常設委員会報告会で報告(渋谷区)

12.25 野生生物保全教育研究会(事務局)

January 2018

1.6～7 「にんち」に「ジャンジャンまつり」にブース出展(上野公園)

1.20 うえのトラ大使学校授業(台東区立上野小学校)

1.20 理事会・総会・交流会(事務局)

1.21 野生生物保全教育研究会(事務局)

1.29～31 象牙問題国際ワークショップ参加(北京)

February

2.9 やまねこマラソン大会参加・ブース出展(西表島)

2.12 沖縄県主催「西表島らしい世界自然遺産のあり方」フォーラムで登壇(西表島)

2.17 うえのトラ大使学校授業(台東区立忍丘小学校)

2.23 瀬木貴将チャリティーコンサート開催(事務局)

March

3.11 うえのトラ大使卒業式(上野動物園)

3.17 世界自然遺産科学委員会 沖縄ワーキンググループ傍聴(西表島)

3.18 環境省イリオモテヤマネコ保護増殖検討会参加(西表島)

April

4.7 白梅さくらまつりにブース展示(世田谷区)

4.15 イリオモテヤマネコ発見50年モニュメント落成式に出席(西表島)

4.15 「イリオモテヤマネコの日」記念シンポジウム開催(西表島)

4.21,22 アースデイ東京2018にブース出展(代々木公園)

4.22 八重山郷友会連合会総会に参加(北区)

May

5.11～16 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)

5.26 野生生物保全教育研究会(事務局)

5.27 ソロプチミスト・バザーにブース出展(狛江市)

June

6.2 チャリティー・パーティー開催(渋谷区)

6.7 世界自然遺産候補地地域連絡会議

平成30年度第1回西表島部会出席(西表島)

6.10 西表島郷友会総会参加(川崎市)

6.26 大原中学校ヤマネコの日をのこし授業(西表島)

6.30 新井晴みチャリティー朗読会開催(事務局)

July

7.2～5 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)

7.22 講演「牙物語」とJTEF活動紹介(北海道東川町)

7.25 ヤマネコの日をのこし授業教員研修会(西表島東部)

7.26 ヤマネコの日をのこし授業教員研修会(西表島西部)

August

8.1～2 沖縄県エコツーリズム推進体制構築事業WG出席(西表島)

8.12 世界ゾウの日にブース出展(上野動物園)

8.13～17 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)

8.23 野生生物保全教育研究会(事務局)

September

9.6 世界自然遺産候補地地域連絡会議 平成30年度第2回西表島部会出席(西表島)

9.9 しあがさ(八重山の郷友会の一つ)総会参加(北区)

9.14 野生生物保全教育研究会(事務局)

9.29～30 ナマステ・インディア2017ブース出展(代々木公園)

October

10.1～5 ワシントン条約常設委員会参加(ソチ)

10.6 ゾウとサイを守るグローバルマーチにブース出展(上野公園)

10.11 EIA 象牙ハンコ店調査記者発表(事務局)

10.13～14 ディワリ・イン・ヨコハマ2018にブース出展(横浜山下公園)

10.25 常設委員会報告会をJWCSと共催(渋谷区)

10.27 ヤマネコ祭2018にブース出展(井の頭自然文化園)

Media

-JTEFやそのパートナーの活動/コメントが掲載されました-

・2017年11月21日_象牙取引、大手相次ぎ撤退メルカリ・楽天…国際的な動向受け「NPO法人トラ・ゾウ保護基金」の坂元雅行事務局長は「市場閉鎖は政府がリードすべきものだが、大手の事業者が撤退することで市場は確実になくなっていくだろう」と話す。

・11月19日_東京新聞:象牙取引、日本を名指し批判生息4カ国が国際委に議案「議案について、NPO法人『トラ・ゾウ保護基金』事務局長の坂元雅行弁護士は『日本の主張は国際社会の流れに反している。他国から厳しい目で見られるのは当然だ』と説明する。」

・12月3日_河北新報:捕鯨、象牙日本批判相次ぐ「ワシントン条約委が閉会」NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」事務局長の坂元雅行弁護士は「条約締約国会議が各国に国内市場の開閉を求める決議を採択しているのに、日本だけを例外とする独自解釈が国際的に受け入れられるはずがない。今の規制のままでは今後も厳しい批判を受けるだろう」と指摘した。」

・12月4日_東京新聞:象牙取引日本に抜け穴「ワシントン条約委 批判相次ぐ」トラ・ゾウ保護基金は、環境省の「登録キャンペーンについて象牙業者の在庫を潤そうというもくろみだと酷評。」

・2017年1月27日_名古屋CBCラジオ:今週のココ掘れニュース 象牙取引、日本の現状 NPO法人トラ・ゾウ保護基金:「ゾウが毎年2万頭も殺されるのはなぜか、それは買手がいるからだ。自分たちがゾウを守るために密猟と戦っているのに、条約の決議を無視してまでも象牙販売を続けている。そんな日本に行動が求められるのは当然だと思います。」Bloomberg

・2月14日_八重山毎日新聞:自然と共生、地域づくり確認 西表島の世界自然遺産登録 有識者らが対策討議「エコツアーの拡大でオーバーユースによって自然環境の悪化が懸念される中、やまねこパトロールの高山事務局長は「現在、島内にある2つのエコツアーは法的拘束力がなく、規制されるエリアも限られていて」と限界を示し、条例に基づいた島全域が対象のルール作りの必要性を強調。」

・3月2日_The Times of India:Tipshwar frontline staff gets lessons in man-animal conflict management 「(トラと人とのトラブルを防止する)このプロジェクトは、インド野生生物トラスト(WTD)が、トラ・保護基金(JTEF)の支援を受けて実施している。」

・4月18日_八重山毎日新聞:屋久島の二の舞になる西表島の世界自然遺産登録 総量規制の導入が重要 JTEF 西表島支部やまねこパトロール主催の第3回記念シンポジウム「屋久島が教える、西表島が今すべきこと」が仲のわいわいホールで開催された。」

・5月5日_朝日新聞:自然保護「宿題ももらった」奄美・沖縄「登録延期」西表島でイリオモテヤマネコの保護に携わるNPO法人「トラ・ゾウ保護基金」職員の高山雄介さんは、報告が「適切な観光管理」などに言及した点に注目。島では観光客の増加でヤマネコの交通事故などの影響が出ているためだ。「観光客の総量規制を求めていると理解できる。政府や地元自治体は直ちに対策を行う必要がある」と話した。」

・5月26日_静岡新聞:ヤマネコ輪禍対策 世界遺産延期を好機に 「『トラ・ゾウ保護基金』の戸川久美さんは「登録延期報告で時間をもらったと考え、地元の人々と一緒に効果的な交通事故防止対策をまとめた。登録はそれからでも遅くはない」と話している。」

・5月30日_WEBRONZA-朝日新聞社の言論サイト:観光客の制限を求められた奄美・沖縄 「島でイリオモテヤマネコの保護に携わるNPO法人「トラ・ゾウ保護基金」の高山雄介さんは「ヤマネコが車や人の存在に慣れ、道路上でひかれた別の動物を食べたり、道路近くで餌をとったりすることが増えていると指摘されている」と話す。」

・6月2日_八重山毎日新聞:自然保全機運の低下を警戒 モニタリングの開始を訴え 「JTEF 西表島支部やまねこパトロール高山事務局長は「自然環境の変化を追い、各フィールドの収容力と観光事業者の実態を正確に把握すること。どれだけの人を受け入れられるかを設定することは、住民の生活を守ることにつながる」と話す。」

・6月8日_東京新聞:あの人に迫る 坂元雅行 「トラ・ゾウ保護基金」事務局長 「象牙の印鑑が本格的に出回ったのは、昭和三十年代の終わりから四十年代以降です。最も聖なる素材である象牙の実印を書類に押せば家財が失われるなどと言った。訪問販売とも結び付き、象牙印の全国への普及に一役買いました。つまり「伝統」とは縁のない話です。」

・6月25日_ Bloomberg Environment, Environment & Energy Report:Japan's New Ivory Trade Rules Lack Adequate Teeth, Critics Say 「坂元は、改正された法律を機能させるには、規制の抜け穴を防ぐことが必須だという立場に立つ。」

・9月20日_本経済新聞:象牙の密輸出国ニッポン 国内取引が「抜け穴」に 「NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」は8月、印鑑の材料として使う象牙を扱っている東京都内の複数の店を対象に覆面調査を実施した。」

・9月24日_ NATIONAL GEOGRAPHIC: How Japan Undermines Efforts to Stop the Illegal Ivory Trade 「『過去の歴史を見れば、ゾウを絶滅に追いやることのない程度に取引を管理しようとしても無理なのは明らかです。』坂元雅行、トラ・ゾウ保護基金(JTEF)。」

・10月15日_朝日新聞:海外送付は違法の象牙印鑑、店の6割「売る」覆面調査 「調査結果を、野生生物保護に取り組む国際NGO「環境調査エージェンシー(EIA)」がまとめた。象牙の需要がなくなり、国際的なゾウ保護の取り組みを阻害していると訴えている。」

・10月27日_日本経済新聞:象牙の印鑑「扱いません」 海外の視線厳しく 「NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」(東京・港)の坂元雅行弁護士によると、1970～80年代に印鑑と運勢を結びつける『印相商法』が流行。『神聖な獣であるゾウの牙を用いると運氣が上がる』などとされ、象牙の印鑑が大衆化した。」

イベントカレンダー

2019

「Spring Love 春風 2019」

JTEF ブース出展
KeenFest (東京・代々木公園)

3月30日(土) 12:00～18:00頃

31日(日) 10:00～18:00頃

4月20日(土)・21日(日)

アースデイ東京
2019JTEF ブース出展
(東京・代々木公園)

4月14日(日)

(西表島・大原)

19:00～(予定)

4月15日(月)

(西表島・上原)

19:00～(予定)

イリオモテヤマネコの日 記念シンポジウム

7月6日(土) 18:00-20:00

JTEFを支えるチャリティーパーティー

(東京・ビヤステーション恵比寿)

JTEFのウェブサイトリニューアルしました！

情報充実+スマホ対応+オンラインでのご寄附も便利に。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

JTEFの活動をご支援ください！

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ 私たちの活動をご支援ください。

★年間サポーター費・随時寄附のお支払方法★

JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単にご寄附いただけます。www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。

ゆうちょ銀行：口座番号) 00170-7-355897 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます

2018年1月1日以降2018年12月31日の間にいただいた年間サポート寄附と随時の寄附は、合計で2,000円を超えると平成30年分の所得税の控除申告ができます。ぜひご活用ください。

確定申告の受付は2019年(平成31年)3月15日(金)まで。お忘れなく！